SDGsを教育に取り入れる前に

新渡戸文化中学校・高等学校　統括校長補佐
（一社）Think the Earth
山藤旅聞

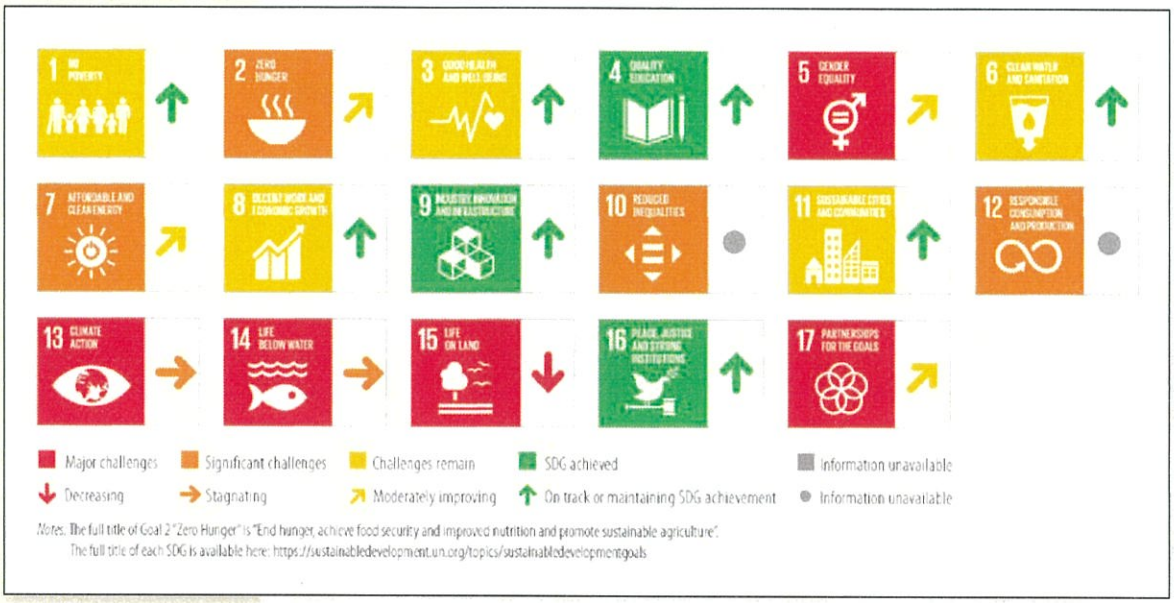

図1　2021年6月に報告された日本のSDGs達成状況（世界18位）

赤は「最大の課題」、オレンジは「重要課題」、黄色は「課題が残っている」、緑色は「達成できている」を意味します。世界1位のフィンランドでも、達成できているのは1、4、6、7の4つの目標のみで、SDGsの目標達成においてはすべての国が発展途上です。

なぜ、SDGsなのか？

2015年から経済協力開発機構（OECD）で実施されてきている"OECD Future of Education and Skills 2030"というプロジェクトでは、より変わりやすくて不確実で、複雑で曖昧となる世界（Volatility, Uncertainty, Complexty and Amiguity：VUCA）だからこそ、今まで以上に「自分で考え、判断し、多様な価値観を持つ仲間と、対話しながら最適解を決定し、行動に移していく能力（コンピテンシー）」が大切になってくると発信しています。レポートの詳細を読んでいくと、これからの時代の教育における中核的概念として「生徒のエージェンシー（student agency）という表現が多く使われおり、「変化を起こすために、自分で目標を設定し、振り返り、責任を持って行動する能力」と定義されています。日本の教育界において、生徒のエージェンシーに近い概念は、「当事者意識」や、「主体性」「主体的」という言葉になるでしょうか。学習指導要領や中央教育審議会答申において、「主体的・対話的で深い学び」、「主体性を持って多様な人と協働して学ぶ態度」などと表現されています。

教育界では、今、生徒たちが諸課題に対して当事者意識を持って主体的な学びを深めていくことが求められています。これは、世界にある諸課題を、世界共通の課題として表現した持続可能な開発目標（SDGs）の達成につながっています。

自分の「好き」×「SDGs」で、学ぶ目的を確認

生徒一人ひとりが学習を進めていくうえで、学ぶ目的を確認することは大切です。その助けにSDGsを活用

図3 元年少兵の方のオンライン講演会の様子

図2 「好き」×「SDGs」を考える活動

図4 「プラスチック問題・海・イベント」でヒットしたビーチクリーン活動

図2の作品をつくった生徒は、こうした活動にも参加し、そこで集めた海のごみを使って、ごみ問題を啓発する動画を作成し、同級生たちに活動を呼び掛けたり、各種アワードに申し込んだりと挑戦を続けています。

「好き」×「SDGs」

step1 「好き」を分解する

図2のように、生徒は一人ひとりの「好き」をマインドマップのように自由に分解します。この「好き」を教科や、分野、単元に置き換えてもいいと思います。この作品は模型からスタートしていることが分かります。

step2 SDGsを関連させる

「好き」を分解したら、できるだけSDGsの各目標を関連させます。ここは、直感的で構いません。SDGsが書かれたカードを渡し、カードから読み取れる情報だけを頼りに、関連していると思うところに置かせます。正しい答えはないことや仲間と違っていて大丈夫であることを伝えながら展開します。

step3 本物を探す

このステップが重要です。「好き」とSDGsを関連させたら、付箋のキーワードとSDGsのキーワードの様々な組み合わせを使って、本物をインターネットで検索します。本物とは、「本、イベント、企業、NPO/NGO、人」と定義しました。

step4 行動する

本物を検索できたら、より詳しく調べ、イベントがあれば申し込みをしたり、企業に取材の申し込みをしたりと、自分だけの次の行動を考え、各自の行動を促します。

することは有効だと考えます。2015年9月に国連で採択されたSDGsの決定プロセスはユニークなものでした。オンライン調査による世界1000万の人々の声を大切にしながら、世界中の様々な職種・立場の人たち（国連、政府、企業、市民、研究者、女性、若者など）が、よりよい未来、よりよい地球にするために、3年かけて作った目標です。世界中の声を反映させた17の世界の困りごとに、興味を持てない生徒はいないと思います。大切なのは、自分の学ぶ目的が入試や考査のためではなく、利他的に未来をつくるためのものだと、SDGsを通じて確認することです。

そこで考えた授業展開を1つ紹介します（上記参照）。これは、「好き」と「SDGs」を掛け算して自分の学びの目標を考える授業です。博報堂DYグループのソーシャルアクション「Q&Action for SDGs」のみなさんと協働でデザインしました。

◆

図2の作品を作った生徒は、自分の作った模型の軍艦を扱った本を見つけ、著者であり、年少兵として搭乗していた人にインタビューをしました。このインタビューで、著書には書かれていない様々な戦争時の話を聞いた生徒は心が動かされ、インタビューの様子を文化祭で発表したり、オンラインを活用した全校講演会をプロデュースしたりして、仲間が戦争と向き合う授業を作っていきました。そのために、彼は、たくさんの本を読み、多くを学んでいました。

このように、SDGsを活用することで、生徒一人ひとりが学ぶ目的を確認し、主体的な活動が生まれていくきっかけになるものだと考えています。